

CSV報告書 2022

KEIWA Incorporated CSV REPORT 2022



1.	トップメッセージ	P.03
2.	会社概要 経営理念／経営ビジョン／恵和バリュー／経営戦略／恵和のコア・コンピタンス／会社沿革	P.06
3.	恵和の現状把握 重要テーマの特定	P.16
4.	CSV目標 『恵和2030』に向けた戦略的指針／8つの重要テーマへの取組み	P.18
5.	CSV活動 ①新しい価値の創造／②高品質の提供／③環境負荷低減／④安定供給、安定調達／ ⑤ガバナンスの向上／⑥労働安全衛生／⑦地域貢献／⑧人材育成	P.21
6.	活動実績評価 マネジメントシステム監査	P.49



1 トップメッセージ

CSV^{※1}の実現は、恵和のDNA。
これからも追及しつづけてまいります。

※1 CSV:Creating Shared Value

絶えず変化し続けるビジネス環境

2022年から2023年にかけても、世界情勢はとどまることなく変化を続けております。私ども恵和は、グローバル経済の一部を構成する企業である以上、このような世界情勢の影響を絶えず受けながら事業を展開しております。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は収束が見通せないまま長期化しており、ロシアからヨーロッパ諸国への天然ガスの供給が滞り、エネルギー全般の価格が世界的に高騰したことから、弊社におきましても電力などのエネルギーコストが上昇しております。

このような環境変化を受けて、これまで脱炭素の取り組みで世界の先頭を走りリードしてきたヨーロッパ諸国や企業で、背に腹は代えられないとばかりに、CO₂排出原単位の高い石炭などのエネルギー源への回帰現象が起っています。一度は高い環境目標を掲げた企業の中には、ロードマップを見直さざるを得ない企業も出てくるかもしれません。

そんな中、弊社は再生可能エネルギーへの切り替え促進などのアクションにより、2022年のCO₂排出量(Scop1+Scope2)を、2021年に比べて約30%、3,000トン以上削減し、2030年の削減目標を前倒しで達成することができたのは幸いでした。



代表取締役社長 兼 COO 足利正夫



1 トップメッセージ



右:代表取締役会長 兼 CEO 長村恵弐

激動の30年間 変わったこと・変わらないこと

さて、私ども恵和にも、大きな変化がありました。2023年3月に、30年以上にわたって代表取締役社長を務めてまいりました長村恵弐が代表取締役会長兼CEOに就任し、取締役副社長であった私、足利正夫が代表取締役社長兼COOに就任いたしました。

長村が社長に就任した1990年当時の恵和は、主に紙を加工した包装資材を国内のお客様に向けて製造販売する非上場企業でした。社長に就任した長村は、世界にはもっともっと多くの素晴らしいお客様が、恵和が持つ技術を必要としているという強い思いでトップ自ら先頭に立ち続けました。その結果、恵和は液晶ディスプレイ向けの光学シートなどをグローバルに提供し、2022年に連結売上高211億円、経常利益62億円を計上する東証プライム企業に成長することができました。

この30年間の特筆すべき変化は、株式市場に上場したことです。これにより、多くの皆さんに支えていただくことで、世の中により大きな価値を提供できるようになりましたが、その分果たすべき責任も大きくなったのは申すまでもありません。

一方変わらなかったものもあります。それは「CSVを追求する姿勢」です。恵和は創業以来、「これが売れて普及すれば、お客様に喜ばれ、社会がよくなり、恵和も成長できる」と確信できるものしか提供してこなかったと自負しております。このDNAは、CSVやSDGsといった言葉が存在しなかった創業時から一貫して実践され、今日まで失うことなく受け継がれております。





1 トップメッセージ

KYŌZINを筆頭にCSVを実践し、社会からの期待に応え続けます

そして、弊社が追求するCSVを最も体現しているのが、地球の絆創膏「KYŌZIN」です。2023年8月14日に公表した中期経営計画において成長戦略の柱としてご紹介いたしました。事業としての成長性・有望性を担保するのは、KYŌZINが持つ社会的な意義の大きさです。

KYŌZINは、経年劣化した高架橋の補修・表面保護を簡単にできないか？というニーズに応えたいという思いから開発しました。高架橋に限らず下水道や建造物などの老朽インフラの増加に対して、予算不足や職人不足から補修が追い付いていません。KYŌZINは、このような社会課題の解決につながる事業なのです。

一般住宅でも、工場や倉庫、店舗などの企業の建物でも、建設から数十年が経過して屋根の補修が必要な建物は非常にたくさんあります。これらの屋根を、塗装や葺き替えなどの既存工法で補修するよりも、トータルコストを抑えつつ、より簡単に施工でき、しかも50年間メンテナンスが不要とする屋根補修用に開発されたKYŌZIN Re-Roofです。KYŌZIN Re-Roofは、KYŌZINの先陣を切って2022年末にすでに量産販売を開始しております。

KYŌZIN Re-Roof販売開始以来、施工いただいたお客様から大変なご好評をいただき、日々ご注文をいただいております。既存の建物をより長く使うことができるようになるこのKYŌZIN Re-Roofが普及すればするほど、環境への負荷を減らすことができるのみならず、効率よく施工できるため、建設業の人手不足が年々深刻化しているという社会課題の解決にも貢献できます。

さらに、地球の絆創膏事業のきっかけとなった高架橋の橋脚のみならず、下水道などのその他のインフラの表面保護にも活用できるよう、用途の拡大にも取り組んでいます。老朽インフラへの対応は、日本だけでなく世界中で課題を抱えているテーマであり、KYŌZINが活躍できるフィールドは無量大とと言えます。

現在はまだまだ規模は小さいですが、本格的な普及に向けたスタートダッシュの段階にあります。株主の皆様からお預かりした資金で建設した開発・製造拠点である淡路ベースを活用しながら、いずれは光学シート事業に匹敵し、そして凌駕する事業に成長させてまいります。

恵和が創業以来積み重ねてきたCSVカンパニーとしてのあり方を、より一層明確にしながら発展させることで、必ずや株主や投資家の皆様をはじめとするステークホルダー各位、私たちが暮らすこの社会そのものからのご期待に副う存在にすべく微力を尽くす所存でございますので、これまで以上に叱咤激励を賜りますようお願い申し上げます。

2023年9月

恵和株式会社
代表取締役社長 兼 COO

足利正夫





2 会社概要

社名	恵和株式会社(KEIWA Incorporated)
設立	1948(昭和23)年9月28日
代表者	代表取締役会長 兼 CEO 長村 恵式 代表取締役社長 兼 COO 足利 正夫
本社	東京都中央区日本橋茅場町2丁目10番5号
資本金	38億8,130万円(2023年4月末現在)
連結業績	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高:21,102百万円 ● 経常利益: 6,202百万円(2022年12月期)
従業員数	<ul style="list-style-type: none"> ● 連結:493人 ● 単体:366人(2022年12月末現在)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 光学シート事業 ● 生活・環境イノベーション事業 ● 地球の絆創膏事業
グループ会社 (連結子会社)	海外4社 (●製造販売会社 1社(中国) ●販売会社 3社(台湾、ソウル、USA))





2 会社概要

経営理念

自然と産業の調和を創造する
Creation of the Harmony
between Nature and Industry

人や自然に優しい製品やサービスを提供することで
社会に貢献するグループを目指しています

経営ビジョン

自然と社会との共通価値を
「高品質の提供」を通じて実現するCSV※グループを目指す

※CSV:Creating Shared Value

恵和バリュー

- | | |
|-------------|---------------|
| ① 社会貢献・自然貢献 | ④ 品質は競争力 |
| ② イノベーション | ⑤ 社員の幸福と自己啓発 |
| ③ 顧客からの信頼 | ⑥ ステークホルダーの満足 |





経営戦略

① 新規事業創出の推進

複合拡散板(オパスキ®)、クリーンエネルギー資材、屋根やコンクリート構造物の保護シート(KYŌZIN®)、医療・衛生関連資材

② ウルトラプレジジョン経営(マーケティング・生産)によりグローバルニッチを目指す

③ AKI活動※の推進により、イノベーションを追求する

④ CSVの推進により、サステナビリティをより堅固にする

⑤ コーポレート・ガバナンス及びコンプライアンスをより強化する

※All KEIWA Innovation活動

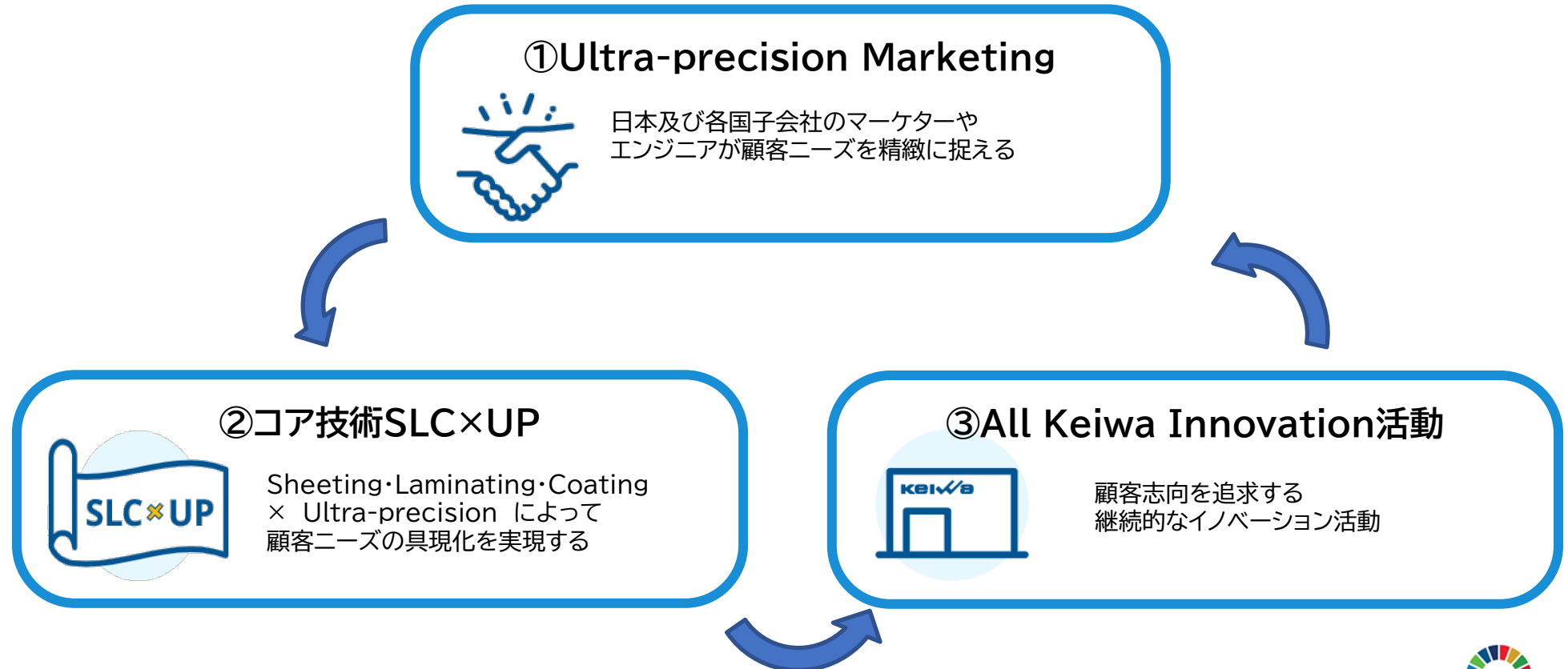




2 会社概要

恵和のコア・コンピタンス

- 顧客ニーズを精緻に捉え、SLC技術で具現化
- イノベーションを実現する社内体制で顧客満足を追う



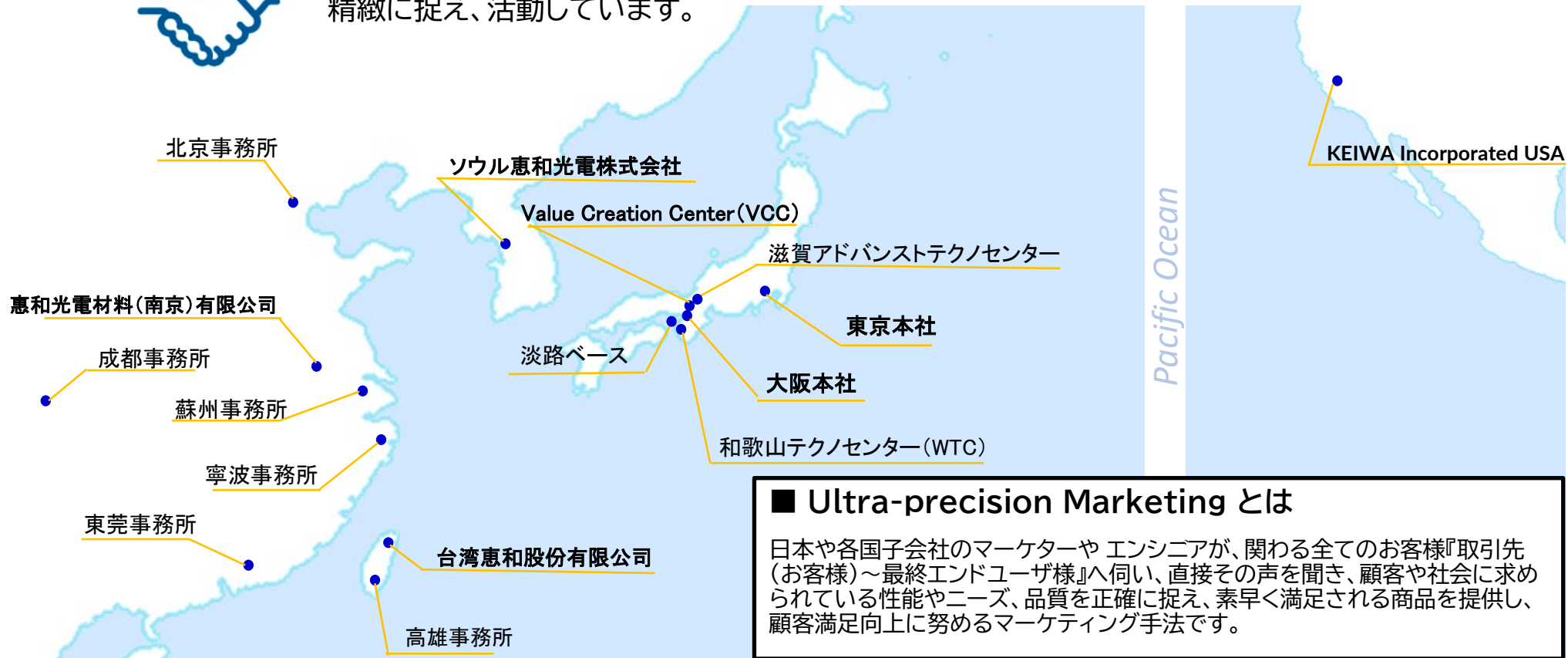


2 会社概要

① Ultra-precision Marketing



私達企業の最大の特徴の一つは、ウルトラプレシジョンマーケティングにあります。日本、および世界主要拠点にある各国子会社のマーケターやエンジニアが顧客ニーズを精緻に捉え、活動しています。



■ Ultra-precision Marketing とは

日本や各国子会社のマーケターや エンジニアが、関わる全てのお客様『取引先(お客様)～最終エンドユーザ様』へ伺い、直接その声を聞き、顧客や社会に求められている性能やニーズ、品質を正確に捉え、素早く満足される商品を提供し、顧客満足向上に努めるマーケティング手法です。

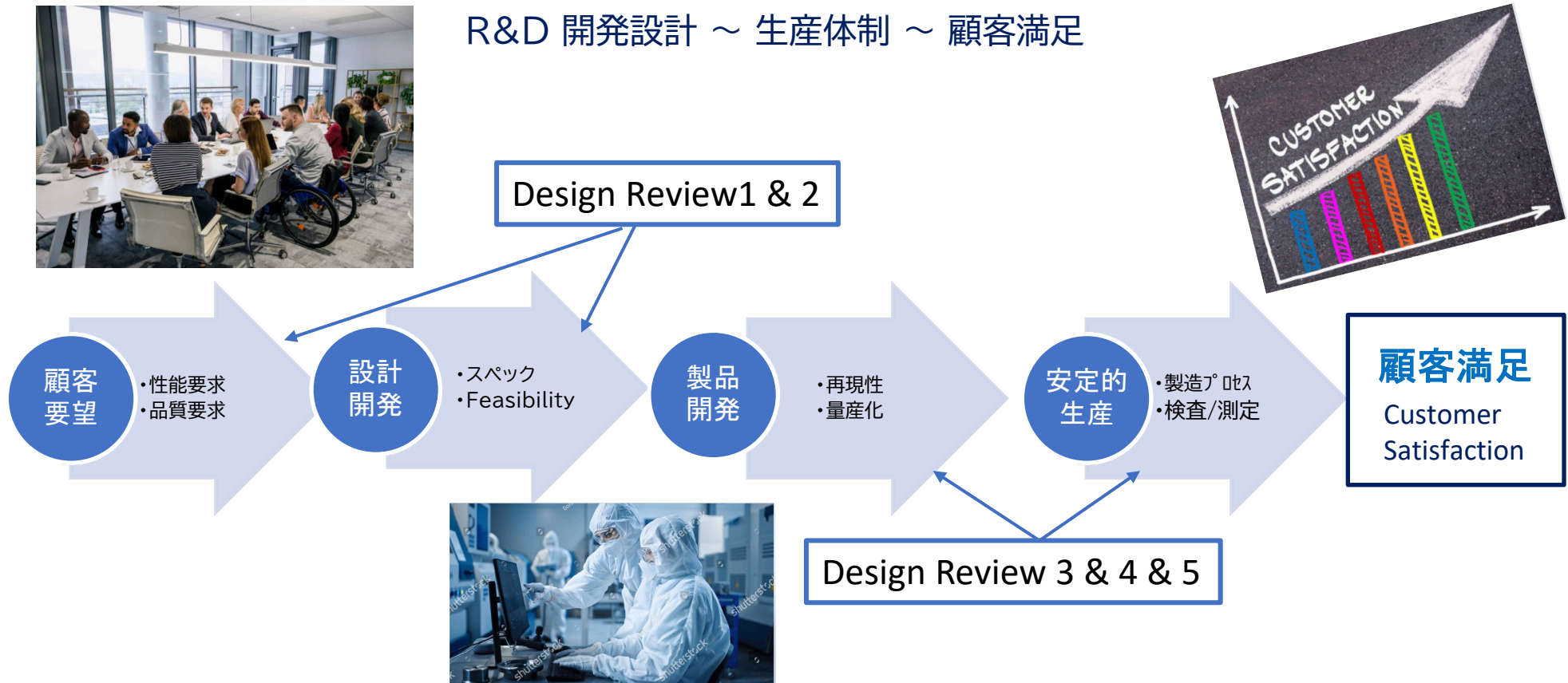




2 会社概要

※ Ultra-precision Marketing の一例として、顧客満足に繋げる流れをご紹介します。

R&D 開発設計 ～ 生産体制 ～ 顧客満足



お客様のご要望を精緻に捉えるUltra-precision Marketing は、顧客要望に応える製品を提供するための密接且つ入念な情報収集に始まり、それらを、技術を結集した設計開発につなげ、生産～安定した量産まで一貫体制で遂行&高品質製品を提供し、顧客志向プロセスで顧客満足に繋げています。





2

会社概要

② コア技術SLC×UP



Sheeting・Laminating・Coating × Ultra-precision によって
顧客ニーズの具現化を実現する

**Sheeting** 製膜

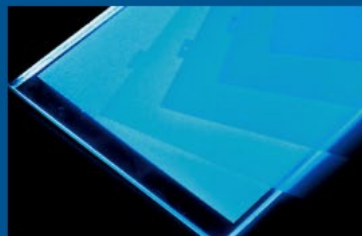
プラスチック樹脂からフィルムを作る技術

**Laminating** 積層

紙やフィルムに複数の材料を貼り合わせ新たな機能を付与する技術

**Coating** 塗布

多種多様な素材に多種多様な塗材を塗り機能・付加価値を持たせる

**Ultra-Precision** 高精細加工

紙やフィルム等の基材に極めて精細に加工印刷する技術

高品質・高精細な製品を製造・提供することで、社会に貢献します。





2 会社概要

③ All Keiwa Innovation活動（AKI活動）



顧客志向を追求する継続的なイノベーション活動
経営戦略浸透の促進と組織全体の戦略的思考の醸成に寄与

■ AKI活動とは

恵和グループのすべての人たちが、お客様の期待・要求に対し、それを上回る高品質製品や新製品、デリバリーの提供を考えて行うイノベーション活動です。

All Keiwa Innovation の頭文字を取ってネーミングしていますが、以下の意味を含め活動に取り組んでいます。



基本。社員が安全である会社は顧客にも信頼され、顧客が安心して恵和に製品の供給が任される事にも繋がります。



お客様のことを考えて勉強し、活動の効果を正しく計算(理解)した上で行動することです。



イノベーティブな活動。新しい発想、行動により顧客としっかり結びついているかが大切です。(単なる発明、思い付きの改善だけではイノベーションではない。)



沿革

1948年/S23	長村秀太郎が神戸市に恵和商工株式会社設立
1966年/S41	東京営業所開設（現 東京本社）
1967年/S42	滋賀工場建設（現 滋賀アドバンステクノセンター）
1968年/S43	小倉工場建設（後の K-Site）
1970年/S45	千葉工場建設（後の T-Site）
1973年/S48	大阪市東淀川区に本社ビル建設
1990年/H2	長村秀太郎が会長に、長村恵氏が社長に就任
1992年/H4	創業者 長村秀太郎 没
1993年/H5	アタックテクノセンターⅠ建設（現 和歌山テクノセンターⅠ）
1998年/H10	アタックテクノセンター（現 和歌山テクノセンター）において、「ISO 9001」認証取得
1999年/H11	社名を恵和株式会社に変更
2001年/H13	台湾に現地法人「台湾恵和股份有限公司」設立
2003年/H15	中国に蘇州駐在事務所を開設
2004年/H16	アタックテクノセンターⅡ建設（現 和歌山テクノセンターⅡ）
2005年/H17	アタックテクノセンター（現 和歌山テクノセンター）において、「ISO 14001」認証取得
2006年/H18	中国に深圳事務所開設 中国に現地法人「恵和光電材料（南京）有限公司」設立

イノベーションの沿革

1948 防湿包装紙「ターポリン紙」
1955 防湿包装紙「ポリプルーフ紙」
1963 防湿包装紙「ポリラミ紙」



ターポリン紙



K-ライト

1969 気化性防錆包装紙「K-ライト™」



1976 農業資材「サニー」シリーズ
1981 農業資材「オーケータニ®シート」



タニシート

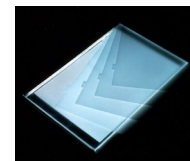


工程紙「A!prog」
（最終用途の例）

1986 工程紙「オルモペーパー®」
「A!prog®」シリーズ



1992 光拡散フィルム「オパルス®」



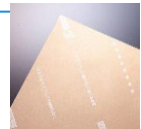
オパルス

沿革

2007年/H19	「Appli-Sola®」販売開始 韓国に現地法人「ソウル恵和光電株式会社」設立
2008年/H20	滋賀工場(現 滋賀アドバンステクノセンター)において、「ISO 9001」認証取得
2009年/H21	滋賀工場(現 滋賀アドバンステクノセンター)において、「ISO 14001」認証取得
	アタックテクノセンターⅢ建設 (現和歌山テクノセンターⅢ)
2010年/H22	中国に寧波事務所を開設
2012年/H24	中国現地法人深圳事務所を東莞事務所に移転
	組織力を高めることにより顧客満足度向上を図り、会社の体質改善、発展に寄与することを目的としてAKI(All Keiwa Innovation)活動を開始
2013年/H25	米国に現地法人設立
2015年/H27	中国に北京事務所を開設 米国カリフォルニア州シリコンバレーに事務所開設
2016年/H28	東京本社を東京都中央区日本橋茅場町へ移転 大阪本社を大阪市中央区瓦町へ移転
2019年/R1	東京証券取引所 市場第二部へ上場
2020年/R2	Apple inc. のサプライヤー・クリーンエネルギープログラムの取組みに参加 和歌山テクノセンターにおいて、「IATF 16949」認証取得 東京証券取引所 市場第一部に指定
2021年/R3	初めての「CSV報告書」を公開 中国に成都事務所を開設 K-Site(旧 九州工場)を滋賀アドバンステクノセンターに移転統合
2022年/R4	T-Site(旧 東京工場)を滋賀アドバンステクノセンターに移転統合 東京証券取引所 プライム市場に移行
2023年/R5	長村恵式 が 代表取締役会長 兼 CEO に、 足利正夫 が 代表取締役社長 兼 COO に就任

イノベーションの沿革

1996 再生可能防湿包装紙「トケバリア®」



トケバリア



アプリソーラ
(最終製品)

2007 太陽電池バックシート
「Appli-Sola®」



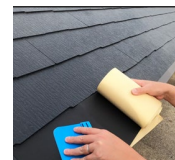
2020 複合拡散板「オパスキ®」



2021 クリーンエネルギー向けフィルム「ACE」
医療・衛生向けフィルム「メディテクト」



2022 建築・土木構造物の保護シート
“地球の絆創膏”「KYÖZIN®」



KYÖZIN



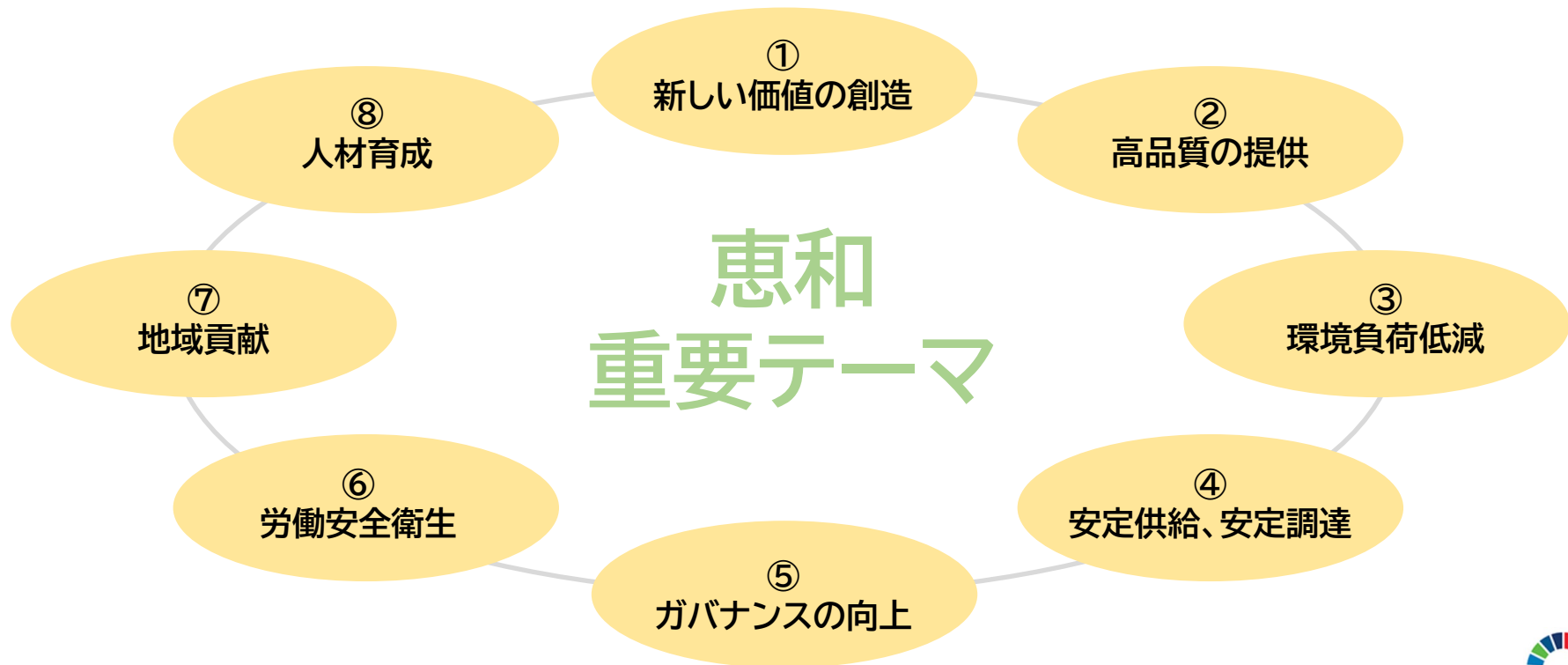


3 恵和の現状把握

重要テーマの特定

恵和株式会社は、多様なステークホルダーの皆さまと価値を分かち合えるように、重要テーマを特定しています。取組みにあたって、国際規格であるISO 30414、ISO 26000、GRIスタンダードを参考にしています。

整理した重要課題の候補を基に、ステークホルダーと恵和の重要度が共に高い項目について、経営ビジョン・恵和バリューとの関連性を考慮して、以下の8項目について重要課題に特定しました。





3 恵和の現状把握

CSV実現

[企業価値の向上 / 持続可能な発展の実現]



恵和株式会社は、経営理念・経営ビジョン・恵和バリューに基づき、中長期経営計画を策定し、CSV実現により、「企業価値の向上」と「持続可能な発展の実現」の達成を目指しています。

CSV実現において、以下の8項目の重要テーマを、マネジメントシステムを土台とし、E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)の観点で取り組むことで、ESG経営の強化にも寄与しています。

特定した重要テーマ

- ① 新しい価値の創造
- ② 高品質の提供
- ③ 環境負荷低減
- ④ 安定供給、安定調達
- ⑤ ガバナンスの向上
- ⑥ 労働安全衛生
- ⑦ 地域貢献
- ⑧ 人材育成





4 CSV目標

『恵和2030』に向けた戦略的指針

2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)は、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから構成され、「誰も取り残さない」世界の実現を目指した、地球上のすべての人を対象とした共通目標です。

恵和が描く未来の社会とは、持続可能な社会、つまりSDGsが達成された豊かな社会です。社会と深く関わる企業の責任を果たしていくため、企業活動のあらゆる側面で、SDGsを「より良い社会づくりのものさし」として活用し、新たな価値を提供していきます。

2030年の恵和のあるべき姿を追求し、多くのステークホルダーの皆さまのご要望に応え続けることで、恵和の使命を全うしていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



《2030年に向けたステップ》



ステークホルダーと恵和の重要度を基に、今期必ず達成すべき重要テーマを決定します。

『恵和2030』の実現に向けて、恵和のあるべき姿を設定します。
(恵和の使命)

2030年に恵和のあるべき姿を達成するための具体的な行動指針を決定します。
(長期目標の設定)

2030年に向けた行動指針を軸に、今期達成すべき具体的な取り組みを決定し、行動に移し、定期的な進捗確認を行います。
(短期・中期目標の設定)





4 CSV目標

8つの重要テーマ	2030年のあるべき姿	中分類	具体的な取組み	関連するSDGs
① 新しい価値の創造	“環境・人・生活”にやさしい製品を、世界中に提供し続けます。	<ul style="list-style-type: none"> ●地球の環境をまもり、よりよい未来の環境づくりに貢献 ●ITデバイスの進化、発展への貢献 ●暮らしの安全・安心を守り、人々の健康を支え、社会の発展に貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ●クリーンエネルギー資材の提供 ●エコマテリアル、リサイクル材料の活用、ゼロVOCへの転換 ●ITデバイスの高機能化に寄与する製品の提供 ●省電力製品の提供 ●インフラ関連資材(KYÖZIN®)の提供 ●医療・衛生関連資材の提供 	
② 高品質の提供	お客様のご要望に合致した「性能」「サービス」を“高品質”で提供し、顧客満足度の最大化を追求します。	<ul style="list-style-type: none"> ●品質保証体制の強化(技術の深耕) ●精緻なマーケティング(技術の深耕) ●生産体制の変革(技術の深耕) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ISO 9001・IATF 16949の認証拡充など品質保証体制の強化 ●検査員認定など社内資格制度の充実 ●AOIの拡充 ●Ultra-precision Marketing、お客様のご要望を精緻に捉える体制づくり ●自動化(自動化)、システム化の推進 	
③ 環境負荷低減	環境負荷低減、環境保全活動に取り組み、自然と調和した持続可能な循環型社会の発展に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギーへの転換 ●産廃の削減 ●リサイクル推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●CO2排出目標達成(2013年度比46%減) ●RE100の宣言 ●太陽光発電設備の導入 ●ISO14001の運用と拡充 ●マテリアルリサイクルの品種拡大 	
④ 安定供給、安定調達	サプライチェーン全体で、お客様に安心・信頼していただける製品を提供し続けます。	<ul style="list-style-type: none"> ●BCPの体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●BCPの定期的見直し ●供給体制の見直し、生産リードタイムの短縮 ●主要部品の内製化 ●原材料の複数購買 	





4 CSV目標

8つの重要テーマ	2030年のあるべき姿	中分類	具体的な取組み	関連するSDGs
⑤ ガバナンスの向上	環境の変化に素早く対応できる体制を強化し、企業価値の向上を実現します。	<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンスの強化 ●意思決定を素早く行うための仕組みづくり(上申システム) 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報セキュリティ対策の強化と従業員への周知・教育 ●各種コンプライアンス研修の実施 ●緊急時の体制図(意思決定を行う仕組みづくりの可視化)コンプライアンス、リスク管理委員会の設置運用 ●経営戦略の浸透、AKI活動(攻めるための意思決定) 	
⑥ 労働安全衛生	すべての従業員が心身ともに安心して働ける健全な職場環境をつくることで従業員満足度を高め、企業の成長を継続します。	<ul style="list-style-type: none"> ●安全、健全な職場環境づくり ●働きがいのある企業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくりセミナー実施 ●安全パトロール、リスクアセスメントの実施、新鮮組 ●ヒヤリハット・改善提案の表彰制度 ●健康経営優良法人 ●福利厚生充実 	
⑦ 地域貢献	地域との関係性を深め、広く協働しながら社会の発展に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> ●産業クラスターの形成 ●地域活性化への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ●産官学連携、大学と共同事例 ●文化支援(スポーツ、芸術、伝統文化など)。 ●次世代育成(教育支援など)。 	
⑧ 人材育成	意欲的なチャレンジを支援し、多様な人材が能力を発揮できる場をつくることで、企業の進化を実現します。	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア形成支援 ●多様な人材の活躍 	<ul style="list-style-type: none"> ●しごと評価シート、あすなるシートの活用 ●教育システムの整備(階層別研修、単元別研修、技術研修など、各種教育訓練の実施) ●グローバル人材、高齢者の雇用、女性活躍推進、語学研修の実施、TOEIC社内試験の実施 	





5 CSV活動

① 新しい価値の創造

恵和2030

関連するSDGs



“環境・人・生活”にやさしい製品を、世界中に提供し続けます。

地球の環境をまもり、よりよい未来の環境づくりに貢献

クリーンエネルギー資材の提供

燃料電池車やハイブリッド車、EVなどのエコカー向けに、燃料電池・二次電池用高性能フィルムを提供しています。

エコカーの動力源である燃料電池や二次電池には、ますます高性能化が求められています。私たちは高性能な特殊フィルムを提供することでそれに応え、クリーンエネルギー車のより一層の普及により、カーボンニュートラル社会の実現に貢献しています。



用途の一例





5 CSV活動

ITデバイスの進化、発展への貢献

私たちは、ITデバイスの進化、デジタル化、発展に付随するニーズをいち早くキャッチし、高機能ITデバイス製品を開発、製品化に成功して来ました。消費電力の削減・省エネで社会に貢献しています。



光拡散フィルム「オパルス®」
複合拡散板「オパスキ®」

幅広く世界中に普及が進んだ液晶ディスプレイは、光源として長年エッジ型LED点灯バックライトを搭載してきました。バックライトは、ディスプレイの根幹部品にあたり、この構造進化に応じてきた恵和光拡散シートオパルス製品は、輝度をUPして明るく出来ることで、バックライトの消費電力削減に寄与して来ました。

そして、現在、ディスプレイ構造は更に進化し、直下式Mini LED点灯バックライトが出現しています。これはデバイス構造そのものが、部分発光になるため、消費電力削減に寄与することに加え、当社の光拡散板、オパスキ、を使用すれば、高い拡散隠蔽効果から、Mini LED搭載個数を減らすことなどが可能で、更なる消費電力の省エネ化に貢献する、として急速に拡大しています。





5 CSV活動

暮らしの安全・安心を守り、人々の健康を支え、社会の発展に貢献

“地球の絆創膏”KYÖZIN®の提供

「KYÖZIN®」は、様々な構造物に絆創膏のように貼ることで長期間保護することが可能な、画期的な保護シートです。

2022年より、屋根補修用途の「KYÖZIN Re-Roof®」の量産販売を開始しました。

他の工法に比べて

- ・既存の屋根に貼るだけなので短い工期で簡便に補修できる
- ・さまざまな種類の屋根材に施工できる
- ・メンテナンスが長期間不要でありライフサイクルコストが低い
- ・軽量であるため建物への負担が少なく建物自体が長持ちする
- ・遮熱性の向上による建物の空調効率の向上が可能

といった特徴があります。

私たちは「KYÖZIN®」が屋根や土木インフラの補修におけるデファクトスタンダードとなることを目指します。

そうならば、施工人員不足の深刻化という社会課題を解決し、老朽化が進行している住宅や工場などの資産、さらには高架橋・下水道・港湾施設といった社会資本を長期間、安全に使用することができます。

それは、私たちの社会がカーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーを実現することへの貢献であると確信しています。



KYÖZIN Re-Roof®施工例





5 CSV活動

② 高品質の提供

恵和2030

お客様のご要望に合致した「性能」「サービス」を“高品質”で提供し、顧客満足度の最大化を追求します。

関連するSDGs



品質方針

恵和は、顧客満足の向上を追求するために、**品質マネジメントシステム**を運用構築しています。

1.顧客満足

顧客や社会に求められている品質を正確に捉え、満足される商品を提供する。

2.法令順守

法令・規制要求事項及びその他の要求事項(顧客要求事項等)を遵守する。

3.品質向上

新鮮な視点で問題点を捉え、課題を決めその解決に向け迅速に行動する。

4.品質目標の達成

目標は明確に定め定期的な見直しを行う。目標達成のため執念をもって明るくやりきる。中途半端で終わらせない。

5.継続的改善

品質マネジメントシステムの有効性の継続的改善に努める。



IATF 16949認証書
(※和歌山テクノセンター取得)



ISO 9001認証書





5 CSV活動

品質保証体制の強化

① ISO9001、IATF16949の認証取得とVDA 6.3 への対応

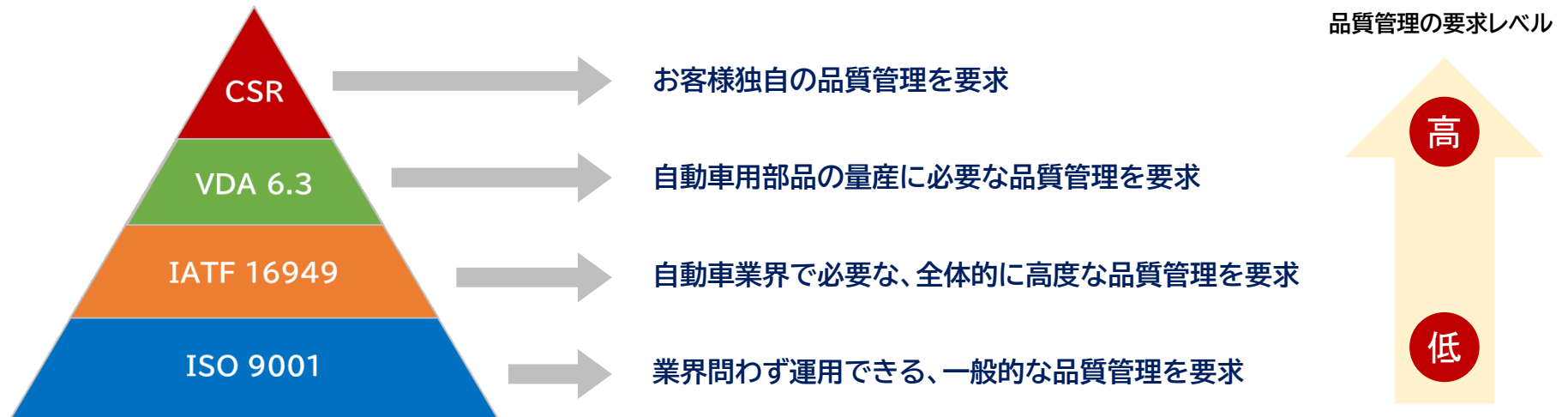
高品質維持の活動において、ISOおよびIATFに基づいた品質保証体制を構築して、継続認証されています。

2021年から2022年にかけては、ドイツのある自動車部品メーカーによる VDA6.3 プロセス監査を受けております。

自動車部品の量産に必要な製品の品質レベルを確立するため、日々の品質活動に取り組んでいます。IATFの審査よりもVDA6.3 の指摘事項が多くありましたが全て対応して、2022年10月に認定されました。

※ VDA6.3

ドイツ自動車工業会(Verband der Automobilindustrie)の要求事項の一つである『プロセス監査』



※CSR = Customer Specific Requirements (顧客固有要求事項)
 IATF = International Automotive Task Force (国際自動車産業特別委員会)
 ISO = International Organization for Standardization (国際標準化機構)





5 CSV活動

品質保証体制の強化

② 社内資格制度(検査員認定など)の充実

より良い品質サービスを提供し続けるため、品質検査員の検査レベルを定期的に確認して、スキル管理しています。(人材スキルの維持活動)

また、製造オペレーターにも、検査員と同様の品質検査ができるよう、オペレーターにも品質教育を行いながら検査の実践を勧めております。オペレーターの検査結果と品質検査員の結果を比較して、相違ないレベルであれば“合格”と認定し、検査資格を与える仕組みを構築しています。



オペレーター認定証 (腕章)





5 CSV活動

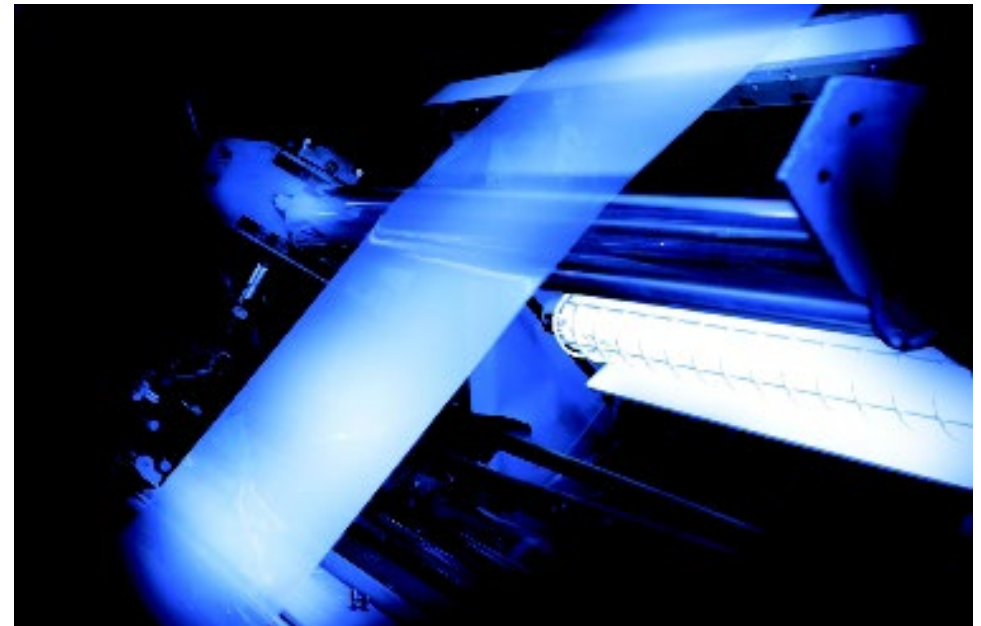
品質保証体制の強化

③ AOI(自動光学検査)装置の拡充

光学フィルムの品質検査において、世界最高水準のAOI(自動光学検査)装置を導入しています。

2022年は、最新のAOI装置を二台導入し、お客様が求める品質レベルに対して、安定した精度で製品を提供する体制を整えています。

また、さらなる品質レベル向上のため、2023年にも、数台のAOI装置導入の計画があります。





5 CSV活動

③ 環境負荷低減

恵和2030

環境負荷低減、環境保全活動に取り組み、
自然と調和した持続可能な循環型社会の発展に貢献します。

関連するSDGs



環境方針

恵和は、環境保全に貢献するために、**環境マネジメントシステム**を運用構築しています。

1. 持続可能な社会の実現

エネルギー使用量の削減、歩留り改善による廃棄物削減及び、環境汚染防止に努め、環境に配慮した製品を提供します。

2. 法令順守

環境に関する法規制及びその他の要求事項(地方条例、地域との協定、自治体の指導事項、顧客要求事項など)を順守します。

3. 社会貢献

地域の環境保全活動に積極的に参画し、地球環境改善に貢献します。

4. 継続的改善

生産活動、製品及びサービスが環境に及ぼす影響を認識し、環境目標の設定を行い改善活動を実施します。また、内部監査及びマネジメントレビューを定期的に行うことによって、環境マネジメントシステムを見直し、継続的改善を図ります。

5. 環境教育・啓発活動

環境方針の周知、訓練、個人目標管理、改善活動を通じて、従業員一人一人の環境保全に対する意識の向上を図ります。



ISO 14001認証書

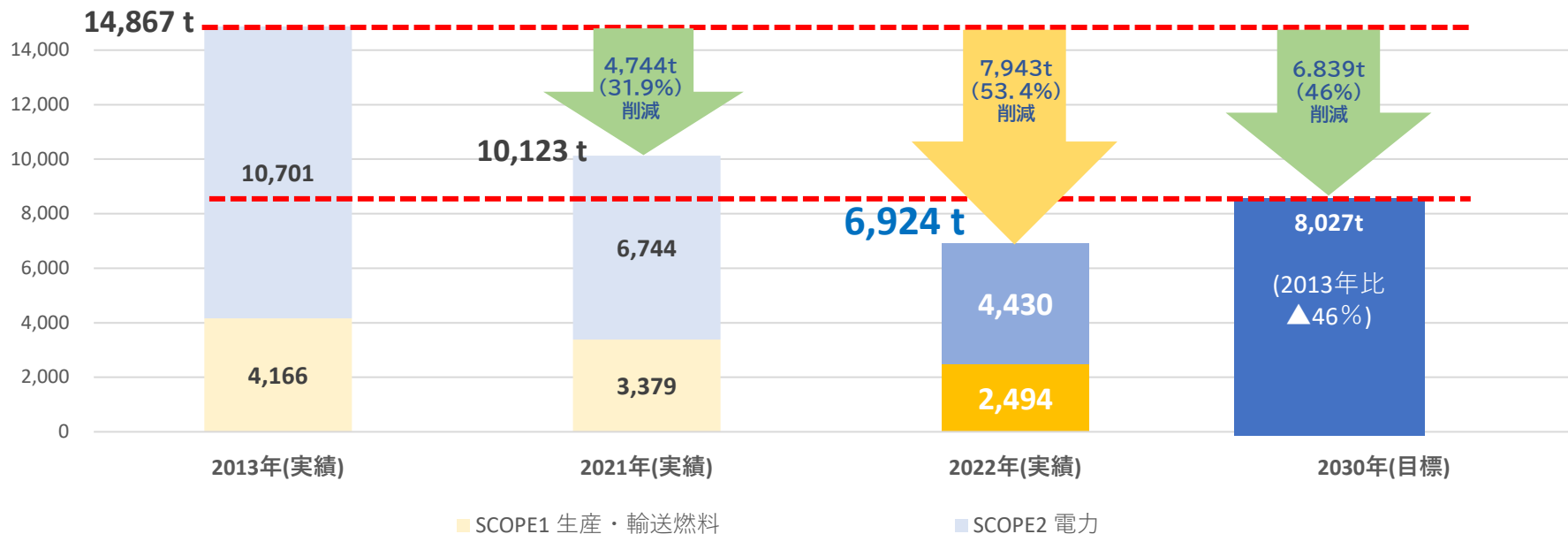




7 CSV活動

再生可能エネルギーへの転換

2022年のCO₂排出量は **6,924t** となり、2030年の目標を前倒して達成いたしました。



今後も以下の施策を行い、CO₂の実質排出量ゼロを目指してまいります。

- ・CO₂排出原単位の少ない熱源や原材料への変更
 - ・近隣に立地する風力等再エネ電力の地産地消
 - ・太陽光発電設備の設置
 - ・高効率な生産方式の導入
- など

2023年7月に、再エネ100宣言RE Action※
に加入いたしました。



※企業が、事業で使用する電力の再生可能エネルギー100%化にコミットする協働イニシアチブ





5 CSV活動

産廃の削減・リサイクル推進

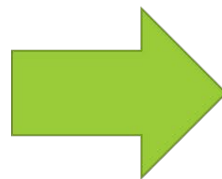
ISO14001の運用と拡充

和歌山テクノセンター内では、廃プラスチックのリサイクル化を促進しています。以前より、廃プラスチックを固形燃料等へのリサイクルする検討を進め、現在でも廃プラスチックの100%リサイクルは達成しています。

新たな取組としては、社内産業廃棄物置き場の分別場所をより分かりやすく設定した上で、細かく廃棄物を分別することが出来るようになり、燃料として燃やすサーマルリサイクルから、資源そのものを再利用するマテリアルリサイクルへ変換する比率を高めていきました。

2021年度実績として、廃プラスチックの59%がマテリアルリサイクルへ変換していましたが、2022年度実績としては、63%のマテリアルリサイクル比率へと進めることが出来ました。

例)現場の整理整頓を進め、リサイクルと産廃の分別が出来るスペースを確保。



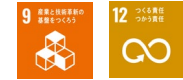


5 CSV活動

④ 安定供給、安定調達

恵和2030

関連するSDGs



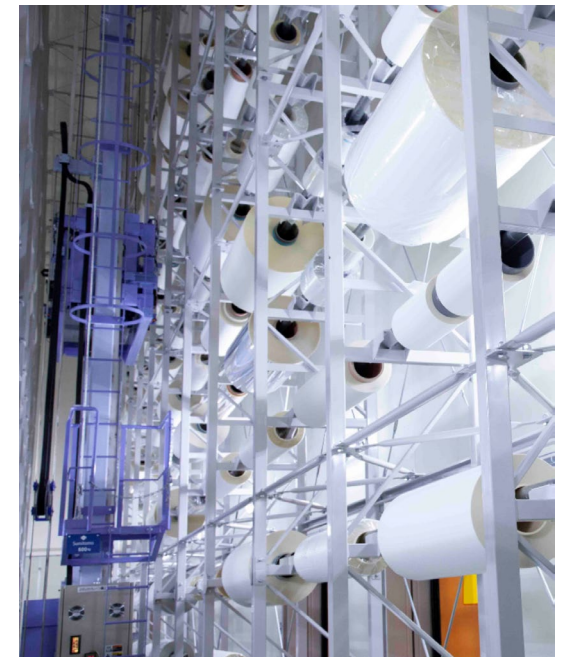
サプライチェーン全体で、お客様に安心・信頼していただける製品を提供し続けます。

BCPの体制強化

供給体制の見直し、生産リードタイムの短縮
最低限の出荷作業をする為に、必要な非常用電源の検討。

有事の際に、非常用電源を用いての復旧を検討。

出荷業務を最優先とし、事務所と一般エリアの復旧、自動倉庫の復旧、生産機の復旧とそれぞれに対して、必要な時間と電力の試算。



自動倉庫





5 CSV活動

取引先様自己評価実施(2022年4月実施)

8テーマに基づき、21社のサプライヤー様に自己評価をしていただきました。

1. CSRの推進	
1.1	CSR（企業の社会責任）を推進するための方針・ガイドラインがありますか
1.2	会社全体としてCSRの推進部署または推進責任者を決定し、CSRを推進していますか。
1.3	内部通報者を保護する社内規則や法令違反行為を相談・報告できる仕組みはありますか。
2. リスクマネジメント（BCP対応）	
2.1	災害・事故等の不足な事態に備えたリスクマネジメントの方針・ガイドラインがありますか。
2.2	全従業員がその方針・ガイドラインを遵守するための体制（推進部署、委員会等）を定めて、管理責任者を明確にしていますか。
2.3	大規模災害を想定した初動対応手順、事業を継続させるためのリスクの洗い出しや低減活動を行い、事業継続計画を策定していますか。
3. 人権	
3.1	従業員の人権を尊重し、虐待、体罰、ハラスメント（嫌がらせ）等の非人道的な扱いを禁止する方針・ガイドラインがありますか。
3.2	セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等のハラスメントの防止に関する方針・ガイドラインがありますか。
3.3	人権・労働に関わる活動を推進する体制（部署、委員会等）を定めて、責任者を明確にしていますか。
3.4	ハラスメントを防止するため、方針・ガイドラインを従業員へ説明をされていますか。（例：各階層への年1回以上の勉強会実施等）
3.5	児童対象者を雇用せず、夜間労働や危険作業等に対して、労働者の保護を図っていますか。
4. 労働安全衛生	
4.1	労働安全衛生に関する方針・ガイドラインがありますか。
4.2	従業員に対して避難訓練もしくは防災に関する研修を毎年1回以上実施していますか。
4.3	従業員に対して年1回は、健康診断を実施していますか。
5. 環境	
5.1	環境保全に関する方針・ガイドラインがありますか。
5.2	環境保全を推進する体制や仕組み（ISO14001等の環境マネジメント、第三者認定制度の活用等）が定められていますか。
6. 企業倫理と法令順守	
6.1	企業倫理・法令遵守を推進するための方針・ガイドラインがありますか。
6.2	反社会的勢力・団体との関係遮断に関する方針・ガイドラインがありますか。
7. サプライチェーンへの展開	
7.1	お取引先（調達先・サプライヤー等）に対しCSR推進のための体制作りを要請していますか。
8. 情報管理と保護	
8.1	顧客・第三者・従業員の個人情報を適切に管理・保護するための方針・ガイドラインがありますか。
8.2	顧客・第三者から受領した機密情報を適切に管理・保護するための方針・ガイドラインがありますか。

評点

5	しっかり出来ている（確実に実行している）
4	出来ている（実行している）
3	ある程度は出来ている
2	あまりできていない
1	できていない

■ 評価結果（評点1～評点5の5段階評価）

全項目平均点：**3.26**点

全項目平均点：**3.0**点未満の
サプライヤー様に対しては、**個別面談**を実施。

【2. リスクマネジメント(BCP対応)】の項目において、自己評点が**2.0**点以下の3社に対しては、下記3項目を依頼し、改善を進めています。

- 1) リスクマネジメントの方針及びガイドライン策定
- 2) 上記推進体制の確立
- 3) 大規模災害を想定した事業継続計画策定





5 CSV活動

⑤ ガバナンスの向上

恵和2030

関連するSDGs



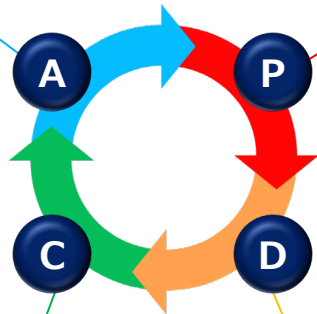
環境の変化に素早く対応できる体制を強化し、企業価値の向上を実現します。

意思決定を素早く行うための仕組みづくり その①～リスク管理体制

当社は、コンプライアンス委員会/リスク管理委員会/CSV委員会の設置により、ステークホルダーの信頼に迅速に応える体制をつくります。

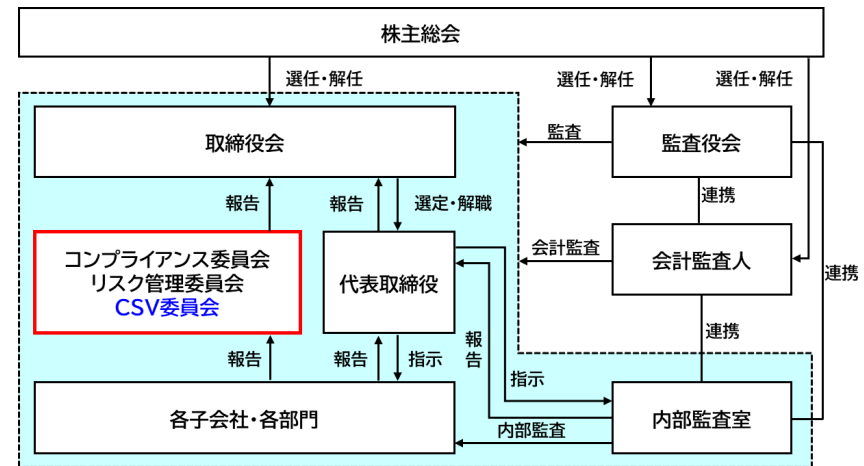
評価結果を基に、不適切な行動やリスクが特定された場合、その原因を分析し、再発防止策を策定することで、管理体制を継続的に強化します。

コンプライアンス計画を立案し、企業のビジョン、目標、戦略を考慮に入れながら、リスク対応策を設定します。



実施した対応策の効果について、内部監査やモニタリングを通じて評価をし、不適切な行動や潜在的なリスクを早期に特定します。

コンプライアンス計画を基に、コンプライアンスとリスク対応策を実施します。





5 CSV活動

意思決定を素早く行うための仕組みづくり その②～AKI活動(攻めの意思決定)

All KEIWA Innovation活動(AKI活動)とは

■ 経営戦略浸透の促進と、組織全体の戦略的思考の醸成に寄与する活動。

数十のチームが参加し、顧客満足向上へとつながるイノベティブな活動を競いあう全社活動です。あらゆる部門からエントリーがあり、お客様に価値を届ける数々の成果を創出しています。

AKI活動では、経営戦略に適合したイノベティブな活動であることを重視しており、チームのテーマアップの際には戦略の内容を理解・反映した形でスタートします。

一方、月次の報告会には取締役も参加し、その場で目的の浸透や活動の修正がなされており、それが素早い意思決定にも繋がっています。

AKI活動によって、会社の健全な発展を維持し、当社の製品・サービス提供を通じて、積極的に地球と未来社会に貢献することができます。

AKI活動の評価視点

評価項目	主な視点
イノベーション	市場を創造する発明・発案であるかどうか
経営戦略適合性	経営戦略に合致しているかどうか
安全・健全	安全方針・コンプライアンスを遵守しているかどうか
テーマの深耕度	テーマについて、どこまで深く掘り下げているかどうか
ストーリー性、プレゼンカ	論理的にわかりやすく説明できているかどうか
経済性	ネットキャッシュフローを考慮に入れているかどうか

第20回AKI活動報告（2022年6月～2022年11月）

第20回AKI活動は、全42チームがエントリーしました。その全社発表会が2022年11月17日に大阪で開催され、選ばれた10チームが発表を行いました

関東、関西から審査の先生方や社外取締役の方々にご足労いただき、発表者と運営スタッフが一同に集まり、半期の活動を振り返って議論し、指導を受ける有意義な時間を過ごすことができました。



第20回AKI全社発表会風景

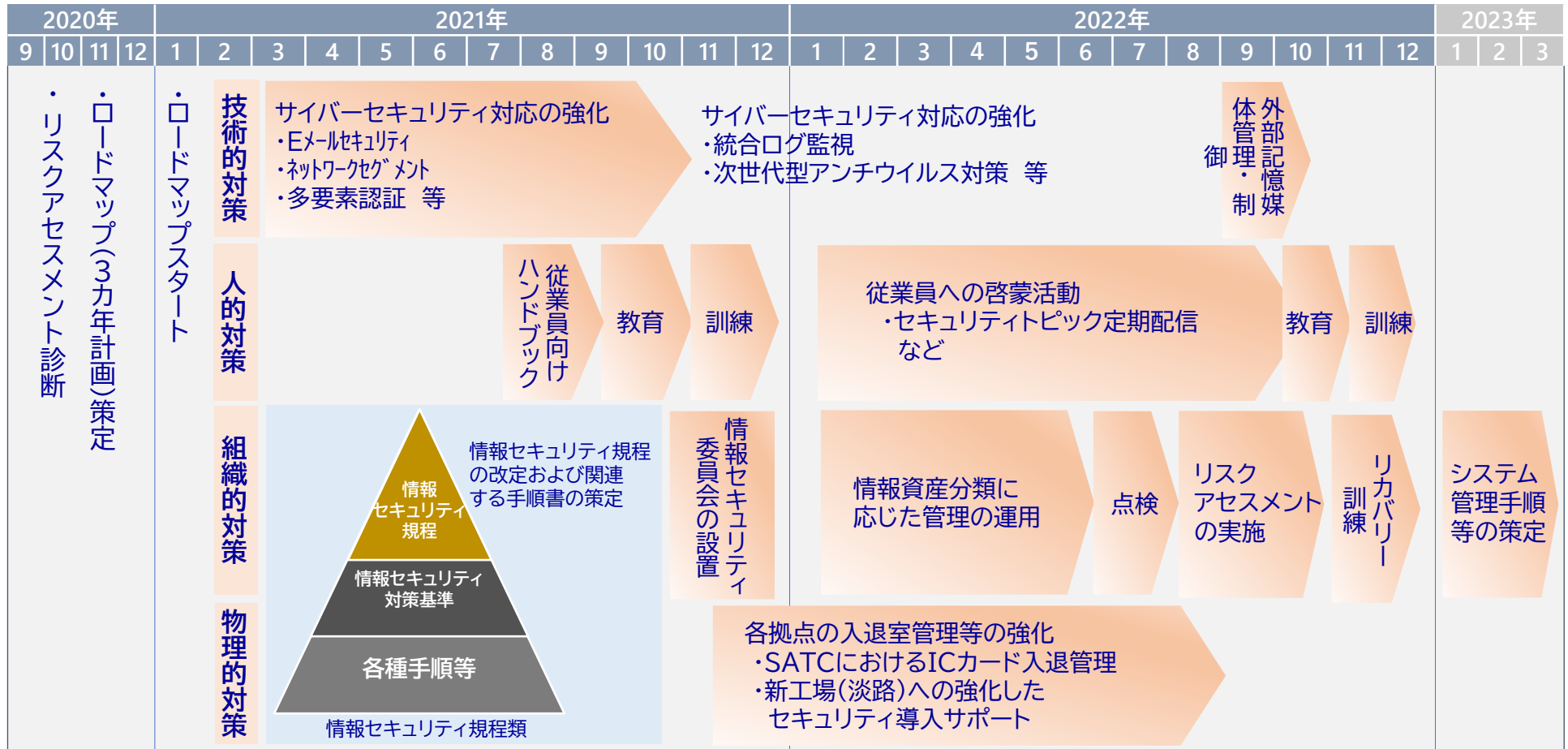




5 CSV活動

高度な情報セキュリティ体制の構築

お取引様や当社の機密情報などが流出しないよう、外部の専門業者によるアセスメントを行い、3年計画で情報セキュリティの強化に取り組みました。





5 CSV活動

情報セキュリティ訓練（標的型攻撃メール訓練）

目的

従業員が標的型攻撃メールを体感し意識向上

実施時期

訓練実施期間

2022年12月23日(金)14:00 ~ 27日(火)17:00

※事前周知無し

対象者

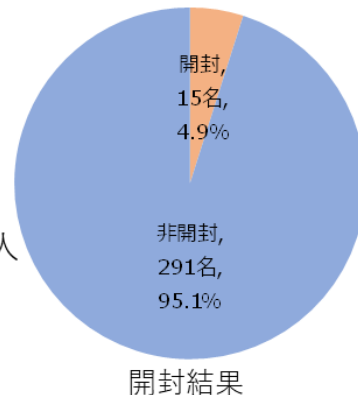
「@keiwa.co.jp」のアカウントを利用する全従業員
および役員
(共有アカウントを含む、社外役員は除く)

訓練メール内容

「商品発送」のメールを装い、メール文中のURLリンクの
クリックを誘発する。

訓練結果

- ・URLリンクをクリックした人
15名 (4.9%)
- ・URLリンクをクリックしなかった人
291名



訓練結果総評

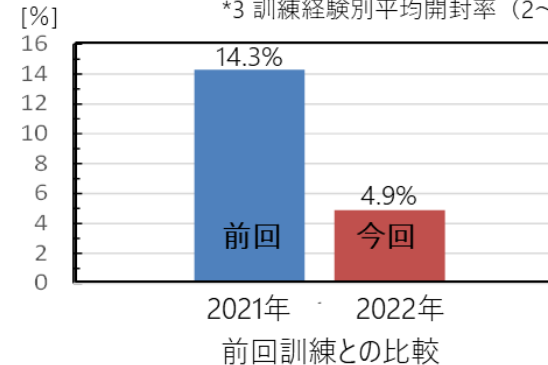
今回の訓練結果は、2021年度の当社の全体平均開封率*1、業種別*2、訓練経験別*3の当社実績値と比較しても下回る結果となった。

また、当社の前回の開封率（2021年11月に1回実施：14.3%）に比べ下回る結果となった。

*1 全体平均開封率（2021年度：11.3%）

*2 業種別平均開封率（製造業：10.5%）

*3 訓練経験別平均開封率（2～4回目：10.8%）



考察

今回の訓練結果は、前回の開封率を下回っている。このことから、多くの方は注意深くメールを取り扱っており、メールに記載されたURLや添付ファイルが無条件に開く人は少ないといえる。しかし、今回の訓練メールの難易度は低いため安心とは言えない。改めて「URLのクリックや添付ファイルの開封を促すメールを受信した場合には、仮に身に覚えのある内容であっても、不審メールではないかどうかを疑い、メールアドレスを確認すること」を周知徹底する。





5 CSV活動

コンプライアンスの強化

全社員を対象に実施している教育研修プログラムの中から、10月に実施した倫理研修についてご紹介します。

倫理教育



■ 研修目的

自社が掲げる労働と人権に関する方針の中で、以下の4点を重点的に理解する

- ①差別・人権問題
- ②ハラスメント
- ③不正汚職・強制労働
- ④働きやすい職場環境確保の仕組み

本日の内容

差別・人権問題

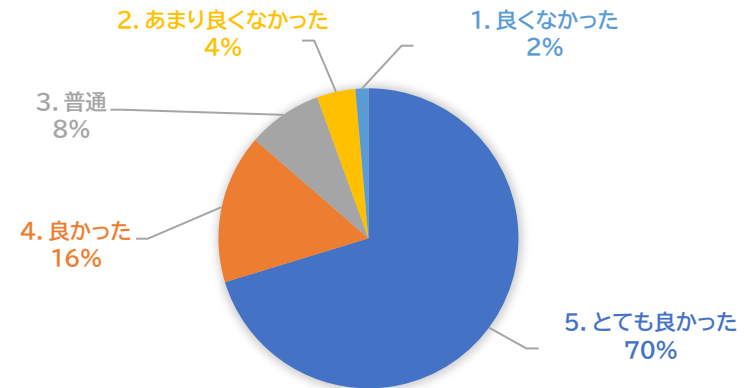
働きやすい職場環境
確保の仕組み

ハラスメント

理解度テスト

不正汚職・強制労働

■ 研修受講者の声（抜粋）：計360名



今回の研修で「気づいたこと」と、それを受けて職場で「実行すること」をあげてください(回答抜粋)

「良かれ」と思っていることで誤解が生じやすいことに気が付きました。受け手側に立ち、感情の動き、分かり易さ、個人自身、生活様式などへの配慮（察しと、思いやり）と、意思を確認することの重要性を感じました。

当たり前のことや悪気なく思っていたことが、相手の気持ちとズレが生じることを理解しました。相手に寄り添う気持ちを大切に職場で実行したいです。

障害者を気遣うあまり過剰な配慮をしてしまっている。障害関係なく同じ環境で仕事出来るよう配慮する。

法秩序の維持とそれに乗っ取りコミュニケーションを図ることで職場の風通しを良くし働きやすい環境を作ることが従業員のモチベーションアップへと繋がり生産性向上へと繋がる。その為まずは自身が今回の研修内容をしっかりと理解した上で他従業員とのコミュニケーションを図る。

男性だけでなく、女性もセクハラのは加害者にもなりうる可能性がある为自己的行動や言動を気をつけようと思いました。また、された場合相談をするなど勇気を持った行動をしようと思いました。





5 CSV活動

⑥ 労働安全衛生

恵和2030

関連するSDGs



すべての従業員が心身ともに安心して働ける健全な職場環境をつくることで従業員満足度を高め、企業の成長を継続します。

労働と人権に関する方針

恵和は、「世界人権宣言」、「労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関(ILO)宣言」、「国連グローバル・コンパクト」等の人権に関する国際行動規範を踏まえ、人権の尊重において企業としての社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

1.差別の禁止

あらゆる企業活動において、人種、信条、性別、年齢、社会的身分、門地、国籍、民族、宗教または障がいの有無などの理由による差別をしないことを約束します。

2.強制労働・ハラスメントの禁止

いかなる種類の強制労働も行わないこと、また、虐待や各種ハラスメント(嫌がらせ)などの過酷で非人道的な扱いを行わないことを約束します。

3.未成年者不法就労防止と児童労働禁止

各国の最低年齢法と要求を遵守し、未成年者不法就労と児童労働を行わないことを約束します。

4.労働基準に関する法令の遵守

労働時間や賃金等の労働基準に関する各国・各地域の法令等の遵守に努めます。

5.結社の自由と団体交渉の尊重

結社の自由と団体交渉権の権利を各国・各地域の法令等に従い尊重します。

6.安全で働きやすい職場環境の確保

安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の安全を確保することを約束します。

7.公平な機会の提供

従業員は恵和にとってかけがえのない財産であると考え、その限りない可能性を発揮する機会と能力を向上させる機会を提供するため、従業員一人ひとりの多様性、人格、個性、人権を尊重し、能力に応じた機会を公平に提供することを約束します。





5 CSV活動

安全衛生活動の取組み

PDCAサイクルに基づいて、さまざまな安全衛生活動に取り組み、継続的改善を続けています。当社の取組みの一部をご紹介します。

安全

【ヒヤリ・ハット提出】
業務中や安全パトロール時などに感じたヒヤリ・ハットを見逃さないために、ヒヤリ・ハットカードに記入し提出しています。

HHカード	
提出日	年 月 日 工程 氏名
いつ	年 月 日 どこで
状態	いずれかを選択して下さい。 ①安全：不安全行動・不安全状態・隠れ、②品質：気がかり 気がかり/不安全行動/不安全状態/両方
事故の種類	いずれかを選択して下さい。 転倒・打撲・墮落・火傷・はさまれ・転落・有線滑りによる機體故障 深部出血・凍死・交通事故・保護具の不備・集中薄・疲労・感作症 その他
原因	何があって、どの様な危険を感じたか（転倒しそうな時等）

【安全パトロール実施】
毎月テーマを決めて現場や事務所の安全パトロールを実施しています。不安全状態・不安全行動・良いところの抽出や、現場従業員とのコミュニケーションを図っています。

【不安全状態・不安全行動改善実施】
安全パトロールで抽出した不安全状態・不安全行動を無くすため、主に対象の現場で対策しています。

【リスクアセスメント実施】
安全パトロールやヒヤリ・ハット、現場作業者が抽出したリスクを当社独自の評価方法でリスク評価し、対策に漏れが無くよう、リスクアセスメントに展開しています。

【ヒヤリ・ハット改善実施】
提出されたヒヤリ・ハットを改善しています。提出者自身が実施した改善は“自創改善”として評価しています。（自創改善は改善維持効果が高いと検証したため、自創改善を推奨しています）

【安全フォローパトロール実施】
安全パトロールで抽出された不安全状態・不安全行動における対策が維持できているか、翌月に確認しています。

**【リスクアセスメント
相談会開催・対策実施】**
現場作業者から安全衛生委員へ、リスク対策実施状況の報告や、リスク対策を進めるうえでの相談を掲示板を設けて行い、迅速な対策につなげています。

【新鮮組活動実施】
安全パトロールや安全教育時に受け取った従業員からの意見を解決するため、また安全衛生委員会でのアドバイスなどを受けて、避難経路の見直しや安全教育など、さまざまな活動を行っています。

【安全昼礼開催】
ヒヤリ・ハット対策状況やリスクアセスメント進捗確認など、安全衛生活動を活性化させるため、安全衛生委員が日々安全昼礼を開催しています。

【安全教育実施】
毎月テーマを決めて安全教育と理解度テストを実施しています。理解度テストで従業員から安全衛生に関する意見も抽出し、活動の展開につなげています。

準備(P)

実施(D)

評価(C)

改善(A)

【ストレスチェック実施】
50人未満の拠点を含め、年1回ストレスチェックを実施しています。

【メンタルヘルス対策セミナー実施】
年1回、外部講師を招き、管理者を対象としたメンタルヘルスセミナーを実施しています。

衛生





5 CSV活動

安全衛生活動の取組み(続き)

リスク抽出(気づき)



対策(こうしたほうが良い)こんな風に対策した

いつでもどこでも
不安な行動や状態を
手立てできる
危険の種類

HHカード

危険の種類: H(手) S(足) C(目) 等

対策: ...

何があって
どの様な危険を感じたか

リスクを見積り 対策内容決定

リスクを低減するのではなく、対策レベルを上げる

- その危険が起きたときにどの程度の怪我をするか(負傷又は疾病の程度)
- その作業はどのような頻度で行っているか(作業頻度)から、危険レベルを算出

表1. 負傷又は疾病の程度	表2. 危険な状態が生じる頻度(作業頻度)	表3. リスクの評価(リスク値)算出の表																																								
<table border="1"> <tr><th>危険の種類</th><th>リスク値</th></tr> <tr><td>死亡または重大な怪我の発生が予想される</td><td>20</td></tr> <tr><td>重傷(重傷以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される</td><td>10</td></tr> <tr><td>軽傷(軽傷以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される</td><td>5</td></tr> <tr><td>怪我(怪我以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される</td><td>1</td></tr> </table>	危険の種類	リスク値	死亡または重大な怪我の発生が予想される	20	重傷(重傷以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される	10	軽傷(軽傷以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される	5	怪我(怪我以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される	1	<table border="1"> <tr><th>発生頻度</th><th>内容</th><th>リスク値</th></tr> <tr><td>頻発</td><td>毎日</td><td>4</td></tr> <tr><td>発生</td><td>毎日</td><td>3</td></tr> <tr><td>発生</td><td>毎日</td><td>2</td></tr> <tr><td>発生</td><td>毎日</td><td>1</td></tr> </table>	発生頻度	内容	リスク値	頻発	毎日	4	発生	毎日	3	発生	毎日	2	発生	毎日	1	<table border="1"> <tr><th>リスクレベル</th><th>リスク値</th><th>リスク評価(リスク値)算出の表</th></tr> <tr><td>S</td><td>21~24点</td><td>重大な危険状態</td></tr> <tr><td>A</td><td>11~14点</td><td>中等な危険状態</td></tr> <tr><td>B</td><td>7~10点</td><td>軽微な危険状態</td></tr> <tr><td>C</td><td>2~6点</td><td>軽微な危険状態</td></tr> </table>	リスクレベル	リスク値	リスク評価(リスク値)算出の表	S	21~24点	重大な危険状態	A	11~14点	中等な危険状態	B	7~10点	軽微な危険状態	C	2~6点	軽微な危険状態
危険の種類	リスク値																																									
死亡または重大な怪我の発生が予想される	20																																									
重傷(重傷以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される	10																																									
軽傷(軽傷以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される	5																																									
怪我(怪我以上の負傷を要する怪我)及び障害の発生が予想される	1																																									
発生頻度	内容	リスク値																																								
頻発	毎日	4																																								
発生	毎日	3																																								
発生	毎日	2																																								
発生	毎日	1																																								
リスクレベル	リスク値	リスク評価(リスク値)算出の表																																								
S	21~24点	重大な危険状態																																								
A	11~14点	中等な危険状態																																								
B	7~10点	軽微な危険状態																																								
C	2~6点	軽微な危険状態																																								

危険レベルはS~Cまでであり、
Sが最も危険レベルが高い(優先的に対策が必要)

対策効果を評価



リスク対策定義

- レベル1. 対策を講じていない【未対策】
- レベル2. 教育(指導・ワンポイント・ルール)【教育】
- レベル3. 注意喚起表示【注意喚起】
- レベル4. バトロール【遵守確認】
- レベル5. 設備対策(カバー・センサー等)【設備対策】
- レベル5.5. 各設備対策が正常に機能している状態【機能点検】
- レベル6. 各設備対策が解除できない状態【解除不能】
- レベル7. 各設備対策が正常に機能している状態【管理点検】
- レベル8. 全設備対策が一か所でも正常に機能していないと機械が動かない状態【一括管理】
- レベル9. 該当エリアに人が入れない状態【鳥カゴ】
- レベル10. 作業自体がない、または無人状態【自動化(無人化)】





5 CSV活動

安全衛生活動の取組み(続き)

従業員への安全啓発



危険な場所はどこかな?



ジオラマKYT 考察中...

避難誘導表示



シートシャッター脱出方法の掲示

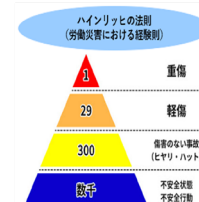


従業員への安全教育

安全パトロールのテーマに沿って教育を実施

テーマ「ヒヤリ・ハットフォロー」

ヒヤリ・ハットとは・・・
重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事象のこと。
文字通り「突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの」。

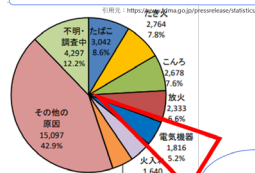


重大な事故1件が発生する背後には、29件の軽傷の事故があり、さらにその背景には300件のヒヤリハットがあるとされています!



火災予防について

2021年 出火原因内訳 (消防庁)



工場火災の主な原因

- 電線の発熱による発火
- 無理な配線、劣化や断線など
- 漏電による発火
- トラッキング現象など



火災を未然に防ぐには?

【燃焼の3要素】が同時に揃わないようにする!!



火災が発生してしまったら?

みんなに知らせる!
消火が無理なら、迷わず逃げる!!



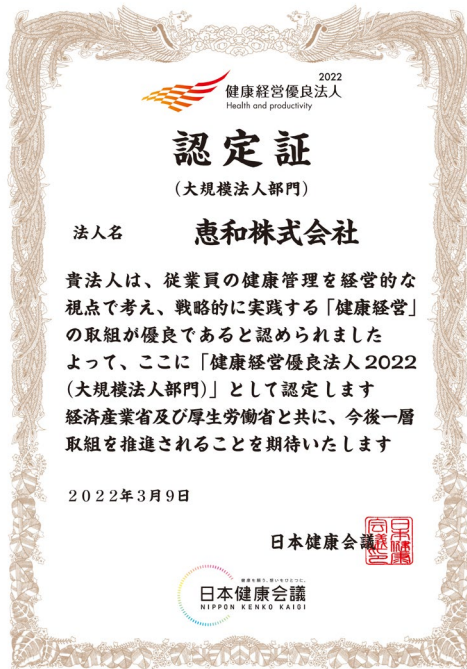


5 CSV活動

働きがいのある企業づくり

恵和では、社員一人ひとりが意図した結果を達成するために、また、エンプロイアビリティ(雇用され続ける能力)を高め、多様なステークホルダーの要望に応えるために、充実した教育支援により、誰もが活躍できる職場づくりを目指しています。

働き方改革に対する取組み(「健康経営優良法人2022」に認定)



恵和株式会社(以下、当社)は、2022年3月9日付で経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に認定されました。

当社は、社員の健康と働きがいを経営の重要な源泉と位置づけ、2021年8月に「健康宣言」を社内外へ表明しております。

今後も健康の維持向上といきいきと楽しく働くことが出来る職場環境づくりに取り組み、健康経営を推進してまいります。

【健康経営優良法人認定制度について】

地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。





5 CSV活動

働きがいのある企業づくり(続き)

健康づくりセミナー (2022年11月実施)

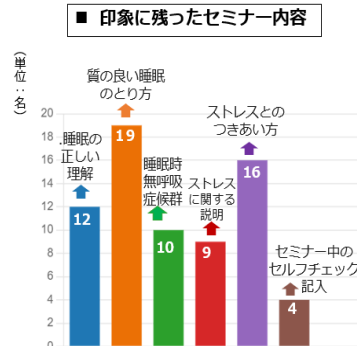
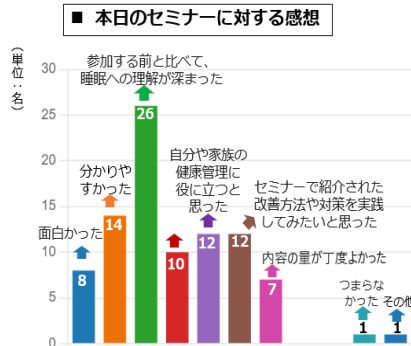
令和4年11月25日 (金)
恵和株式会社 様

心も体も健康に
～ 睡眠とメンタルヘルス ～

第4回健康づくりセミナー アンケート中間報告

(回答件数：30名 (うち、女性10名、男性20名) ※2022年12月13日時点)

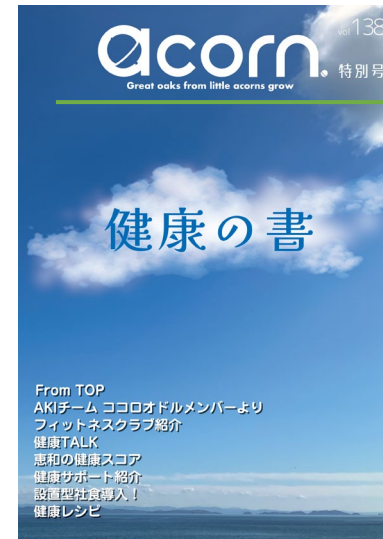
- 「セミナーに対する感想」の質問に対して、「参加する前と比べて、睡眠への理解が深まった」が86.7%と最も高く、次いで「分かりやすかった」(46.7%)、「自分や家族の健康管理に役に立つと思った」(40%)、「セミナーで紹介された改善方法や対策を実践してみたいと思った」(40%)が続いている。
- 「印象に残ったセミナー内容」の質問に対して、「質の良い睡眠のとり方」「ストレスとのつきあい方」がそれぞれ63.3%、53.3%であった。そのほか、「睡眠の正しい理解」「睡眠時無呼吸症候群」と答えた参加者は3割程度であった。



福利厚生の充実

社内誌 Acorn

特別号として健康情報誌「健康の書」を発行。
従業員の病気の体験記や健康に関する社内の取り組みを紹介しています。



Acornの由来

「Great oaks from little acorns grow」とは直訳すると、「小さなどんぐりから立派な樫の木が育つ」という意味になります。

「どんな立派な樫の木もどんぐりが成長したものである」と、継続して頑張る人に勇気を与えるものになっています。

最初の小さな一歩がどれだけ重要であるか、また、その一歩を踏み出すことが、将来的に大きな成功や成果につながるという願いを込めて「Acorn」と名付けました。

From TOP
AKIチーム ココロオドルメンバーより
フィットネスクラブ紹介
健康TALK
恵和の健康スコア
健康サポート紹介
設置型社食導入！
健康レシピ





5 CSV活動

⑦ 地域貢献

恵和2030

関連するSDGs



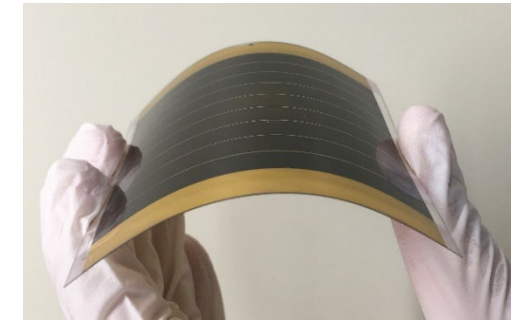
地域との関係性を深め、広く協働しながら社会の発展に貢献します。

産業クラスターの形成

産学連携の取組み

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、再生可能エネルギーの重要性が高まっています。

高性能な有機系太陽電池(ペロブスカイト太陽電池等)の将来の安定的な量産や普及に貢献するため、東京大学との共同研究・有機系太陽電池技術研究組合(RATO)への参画を通して製品やソリューションの開発等を行っています。



フレキシブルペロブスカイト太陽電池

和歌山県知事表彰(産業の振興分野)

1994年の和歌山テクノセンター(当時はアタックテクノセンター)開設以来、光学フィルム事業の開発・製造の主力拠点として継続的に投資を行ってきました。

当社の長年にわたる和歌山県の産業振興に対する貢献をご評価いただき、2022年5月に、代表取締役 長村 恵式が令和4年度和歌山県知事表彰(産業の振興分野)の栄に浴しました。



和歌山県知事 仁坂 吉伸 様 (前段左側より2人目)
和歌山県議会議長 森 礼子 様 (前段左側より3人目)
当社 長村 恵式 (前段左側より1人目)





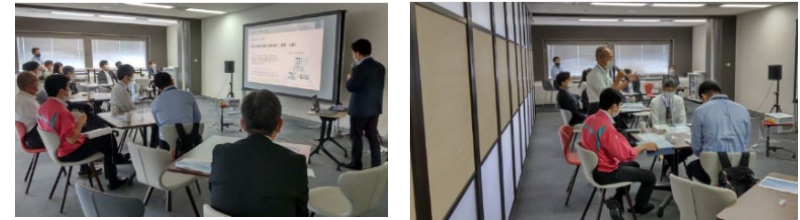
5 CSV活動

地域活性化への貢献

学術交流

2020年けいはんな学研都市に設立した開発拠点VCCを中心に、学術交流・発展の場を広げています。
Ex)日産自動車様学研都市視察(4月)、リレーセミナー(6月)、けいはんなロボット技術フォーラム(12月)など

当地域にある奈良先端科学技術大学主催のワークショップなどのご縁から、本学生に入学いただきました。今後も地域との協働関係をさらに強めていきます。



けいはんな学研都市でのワークショップの様子

地域の子どもたちへの文化支援

劇団四季ファミリーミュージカル『人間になりたがった猫』東京・全国公演及び、児童招待公演「こころの劇場」<大阪・滋賀・和歌山公演> に協賛しました。(2022年7月23日～2023年3月25日)

「こころの劇場」は、全国の子どもたちに演劇の感動を届けるプロジェクトです。子どもたちの心に、「生命の大切さ」「人を思いやる心」「信じあう喜び」など、生きていく上で大事なことを、舞台を通じて語り掛けるという趣旨に賛同し、協賛支援を行いました。
※2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で 動画配信版 での実施となりました。



劇団四季 ファミリーミュージカル
「人間になりたがった猫」





5 CSV活動

⑧ 人材育成

恵和2030

関連するSDGs



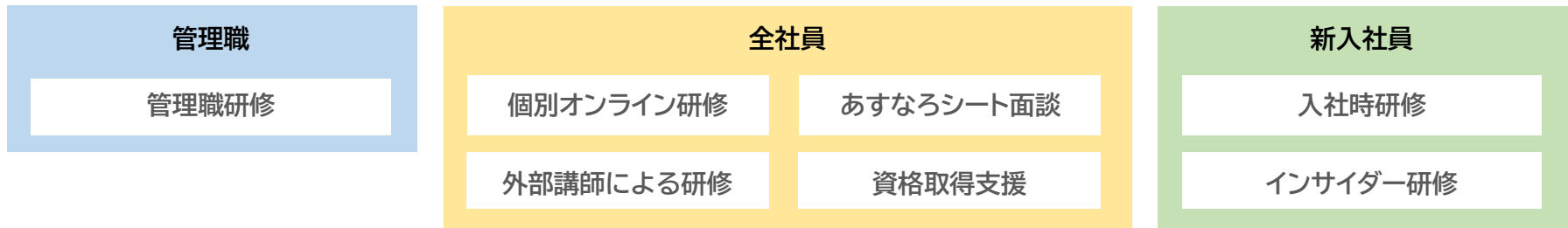
意欲的なチャレンジを支援し、多様な人材が能力を発揮できる場をつくることで、企業の進化を実現します。

キャリア形成支援

教育システムの整備（階層別研修、単元別研修、技術研修など、各種教育訓練の実施）

恵和では、社員の成長を促す事が会社の業績向上につながると考えています。画一的な研修よりも、個人の成長課題にあった研修を提供していく事を目指しており、階層や抱えている課題に応じて集合研修や個別のオンライン研修など多数のプランを用意しています。

■ 教育研修プログラム





5 CSV活動

しごと評価シート、あすなるシートの活用

半年ごとに実施している上司との面談の際に、10年後のあるべき姿を考える「あすなるシート」というツールを使って成長課題の確認を行い、その人に合った内容の研修を受けることで、自ら描いた成長プランを実現できるような支援体制をとっております。そうすることで、従業員の主体性を育みつつ、所属する組織が求める最大の成果が得られることを目指しています。

あすなるシート

明日は檜になろう！

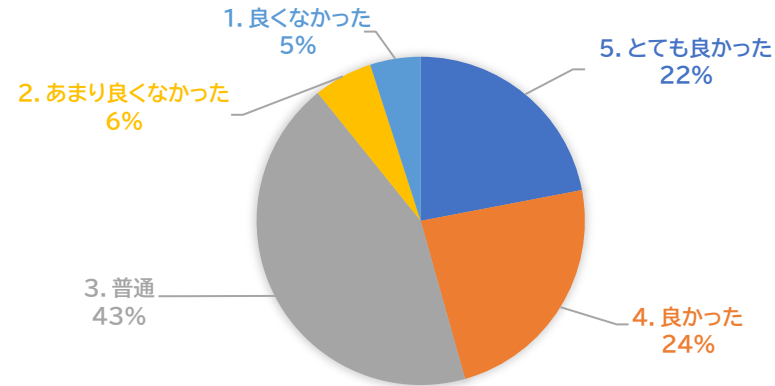
～ キャリアプラン作成 ～

あすなるは漢字で翌檜と書き、檜（ひのき）に似た木で、いつも「明日は檜になろう」と思っているといえます。仕事をするうえで、自分のなりたいイメージを明確にし、今何が出来るのか、これから何が必要なのか、目標をたて、出来る事から行動を起こすのです。そして、その目標が達成された時点で、また新たなステップへとプランを立てて実行するという繰り返しになります。キャリアプランは節目ごとに見直し、戦略的に立てていく必要のあるものです。

あすなるの木のように「なりたい」と思うことが大切です。

作成年月日	
所属	
社員番号	
氏名	

■ 研修受講者の声（抜粋）：計241名



Q.2022年度あすなる研修に出席又は録画視聴で受講した感想をきかせてください。（回答抜粋）

10年前にお聞きしたかったセミナーですが、人生100年と言う意味では、あと20年以上はありますので、確かに私なりのキャリアアップが必要なのだらうとは思いますが、世の中の人も含めて、まだまだ勉強しなければならないと強く感じました。

「なりたい自分」と「個人・組織（会社）との関係性」について考える時間はとても貴重でした。あすなるシートへの理解が深まりました。いままでなんとなくやっていることの一部がはっきりなってきました。

キャリアは人生全体で考えるという視点は、初めての考え方でした。キャリアの考え方も多様化しているように思いました。恵和のあすなるシートは、キャリアを考える上で大事な事項が網羅されていることに気づきましたので、今後うまく活用していきたいです。

普段のワークスタイルだと、視野が狭くなりがちで偏った考えしか出来なくなる為、こう言ったセミナーや研修を受けると、見る視野が広がり自分の可能性がどういった分野に伸ばせるのか改めて考える事が出来ました。

まずは自分を知ることが大事で、そこからどうなりたいか、何をしたいのか、どうすれば会社に貢献できるか、その為には今自分は何かが必要なのか、という流れで考えていくことが必要であるということを認識させてもらいました。勉強になりました。これからのあすなる作成、自分磨きに活かしていきたいと思えます。



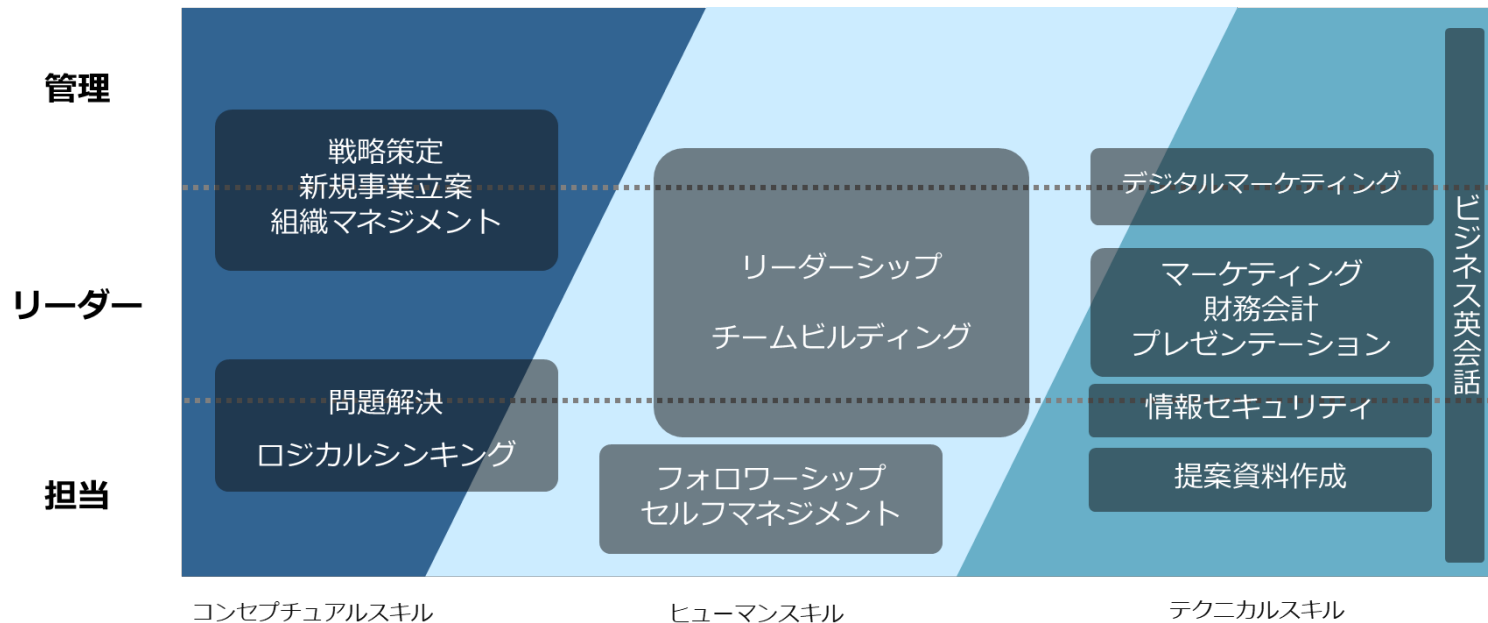


5 CSV活動

多様な人材の活躍

恵和ビジネスカレッジとは？

階層別、自己研鑽研修の一環で、インターネットによる遠隔マネジメント教育の外部企業の映像講座を採用し、毎年7月～9月の3か月間を「恵和ビジネスカレッジ」として、イーラーニング研修を実施しています。受講者は学んだ事を実践したうえで、レポートで目標を掲げ、業務に活かしています。



e-learning

オンライン
セミナーオンライン
英会話

場所と時間を気にせず、自分のペースで学べるオンライン学習が充実している





6 活動実績評価

マネジメントシステム監査

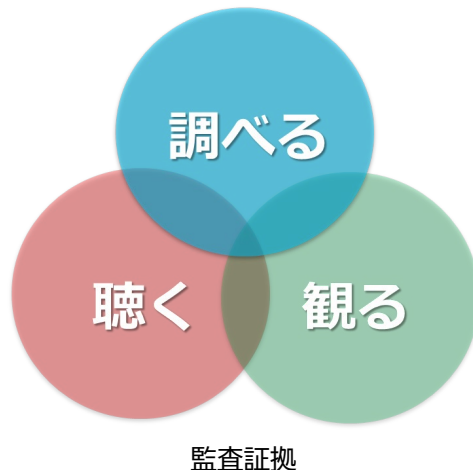
関連するSDGs



恵和のCSV活動を形骸化させないため、より確かなものにするための振り返り(有効性評価)を実施します。情報に左右されない、判断のよりどころを構築し、組織の価値向上につなげる監査を実現しています。

恵和のマネジメントシステム監査とは？

恵和が、高品質な製品を作り続けることができるのは、内部の眼による確かな評価の賜物です。(株)ベックスコーポレーションによる、ISO 9001/ISO 14001/IATF 16949 の内部監査員教育を受講した精鋭による内部監査は、気づきと改善を促す貴重な時間になっています。情報に左右されない思考力と、情報の有効性を評価する判断力を養うことで、自身の言動に根拠が生まれ、判断のよりどころの確立に繋がります。



マネジメントシステム監査は検証活動の繰返しです。一人ひとりの仕事が、意図した結果を達成することへと繋がっているかを監査基準から判定し、監査証拠を収集し、それを客観的に評価します。

ISO 9001/ISO 14001/IATF 16949の規格要求事項を理解し、3つの視点で監査証拠を正確に捉える訓練を重ねることで、高いレベルでの内部監査を実現しています。

マネジメントシステム監査によって得られた結果は、組織のトップマネジメントに報告され、継続的改善活動の指針となっています。

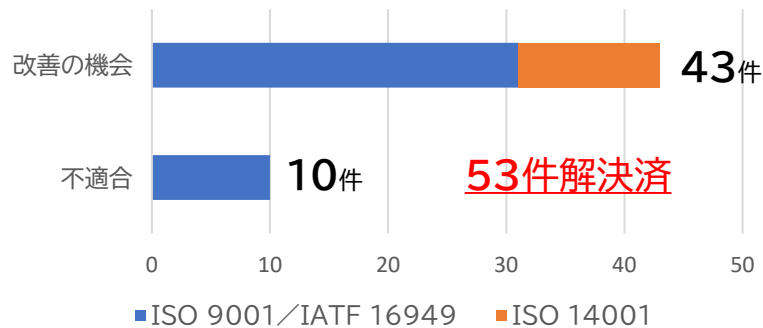




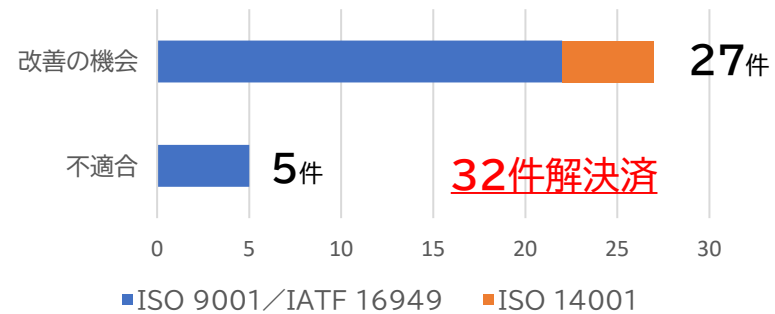
6 活動実績評価

マネジメントシステム監査 活動結果

2021年 マネジメントシステム監査結果



2022年 マネジメントシステム監査結果



2021年の改善事項を確実に対処した上で、2022年では更なる改善事項を発見/解決することで、仕組みの質を高めています！

2022年マネジメントシステム監査 [実施期間:2022年11月8日~2022年11月9日]

項番7・8に関する指摘が多くなっていることから【支援】【運用】に関する要求事項への対応が弱いことが見て取れます。特に今回の内部監査では文書の作成がされていない、内容が改訂されていない、文書と文書の紐づけが無い、管理番号が付与されていないといった文書管理関係の指摘が散見されました。IATF 16949取得に向けて初期作成の文書やルールがそのままになっているというものも多い為、今期は文書管理に重きを置いて改善する必要があります。

また、教育関連に関して教育訓練プロセスの指摘が多いため、本プロセスの考え方を改める必要があります、現状に即した内容に見直しを図ることで、より有効な仕組みとして活用できると期待します。

